

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	平成 29 年度
氏名	清水 順子	指導教員 (主査)	安齋 ひとみ

論文題目	在宅看護論実習における同行訪問指導の意味
------	----------------------

本文概要	
<p><b>目的：</b>在宅看護論実習における同行訪問指導の意味を明らかにする。</p> <p><b>方法：</b>半構成的面接法によるデータを、質的記述的研究により分析した。</p> <p><b>対象：</b>在宅看護論実習で同行訪問している教員で、同意の得られた 9 名である。</p> <p><b>結果：</b>166 のコードから 32 のサブカテゴリが抽出された。【同行訪問したい意思と受け入れがある環境】【療養者・家族に負担をかけないように気遣う】【学生の実習場面を見て把握することの大切さ】【教員の立ち位置は出過ぎず必要時サポート】【療養者・家族を理解して学生指導に活用】【学生と場面を共有し気づきや視野を広げる関わり】【訪問看護師とは在宅看護を高めあう仲間】【同行訪問で得られる教員自身の成長】の 8 カテゴリが抽出された。</p> <p><b>考察：</b>在宅看護論実習における同行訪問指導について、同行訪問したい意思と受け入れがある環境が同行訪問する要件として重要であると捉えていた。そのため、療養者・家族に負担をかけないように気遣うこと、学生の実習場面を見て把握することの大切さを捉えていた。また、学生にも療養者・家族にも教員の立ち位置は出過ぎず必要時サポートをしていた。実習指導においては療養者・家族を理解して学生指導に活用し、学生と場面を共有し気づきや視野を広げる関わりに意味があると捉えていた。さらに、訪問することにより、訪問看護師とは在宅看護を高めあう仲間となり、訪問で得られる教員自身の成長があることの重要性を捉えていた。</p> <p><b>結論：</b>同行訪問指導の意味について、教員の同行訪問したい意思と受け入れがある環境が前提にあり、立ち位置に配慮しながら、場面を共有し気づきや視野を広げる実習指導が行えると捉えていた。また、訪問には、訪問看護師と在宅看護を高め合う仲間となり、教員自身の成長を得る意味があると捉え、また、同行訪問したい意思へと繋がっていた。</p> <p><b>Keywords：</b>在宅看護論実習、同行訪問指導、教員、意味</p>	